

成人式祝辞

冒頭挨拶

新成人の皆様、おめでとうございます。また、今日まで深い愛情を持ってお子さんを立派に育て上げられた保護者の皆様、ご家族の皆様にも重ねてお喜びを申し上げます。

みなさんの表情は、とても晴れやかで眩しくもあり、日本の未来は明るいぞと心強く感じています。ところで皆さんの現在の心境は如何でしょうか。大人の仲間入りをするとやった気負いよりは、久々の故郷での旧友との再会に心躍っていると言ったところが本当かもしれません。折角の節目でありますので、皆さんが過ごした 20 年の軌跡を、これまで皆さんを支えてくれたご両親や大勢の方々との出会いに感謝しつつ、思い返して噛みしめていただきたいと思います。

生まれ年

皆さんは、平成 5 年から平成 6 年生まれではありますが、その頃はどんな年であったか少々振り返ってみたいと思います。政治的には自民党政権が細川護熙内閣の非自民政権に取って代われ 55 年体制が終焉いたしました。皇太子様のご結婚と J リーグ誕生やリレハンメル冬季オリンピックというおめでたいニュースと奥尻島を中心とする北海道南西沖地震やインド、ロサンゼルスの大震災と世界中で大きな地震災害という悲しいニュースが交差しながら駆け抜けた年でもあります。流行語大賞は 93 年が「J リーグ」、94 年は「同情するなら金をくれ」でした。就職氷河期や景気低迷が始まった時期でもあり、昨年の「おもてなし」、「倍返し」、「今でしょう」、「じぇじぇじぇ」などの流行語が代表する世相とは随分と違いがあるようです。

勿論生まれた年のことは、皆様にとっては記憶にないことと思いますが、北海道南西沖とその後に起きた阪神淡路、東日本の三つの大震災は、災害列島に住む私たちの宿命として今後長く語りつないでいかなければならない出来事でありました。特に、平成 23 年の東日本大震災における被害は甚大なものであり、皆様方も大変心を痛めていると思いますし、一日も早い復興にできる限りの理解と協力をお願いします。

皆様には、多くの試練が待ち受けていることと思いますが、そのような状況に決して臆することなく、皆さんのあふれる若さとパワーで、様々な困難を乗り越えていただきたいと願っています。いつの時代も社会は若い世代にとってハードルが高く、不条理に映るものですが、しかし、そんな社会を新しい形に代えられるのも、また皆さんのような若い世代です。

大人の自覚

ここで私からいくつかのお願いがあります。20 才ともなれば、今後はこれまで以上に皆様に対する期待が大きくなるのであります。権利と自由はより大きなものとなり、その代わり責任や義務はより重くなります。それは、様々な法律で成年と未成年を区別し、権利や義務そして結果責任などの面でその扱いは大きく異なっているからであります。精神的にも

肉体的にも社会の一員として自律出来る、自立していると評価されているからに他なりません。今後は責任ある行動に、思いやりを込めて地域社会の一員として周囲の期待に応えていただきたいと思います。

政治参加

もう一つは、政治参加に関するお願いです。衆・参の国政選挙、知事・市町村長・各議会議員などの地方選挙が毎年のように執行されます。その都度マスコミの話題の中心となりますが、一方で、各種選挙の投票率の低下に歯止めがかからないことが心配です。野暮なことは言いたくありませんが、将来の日本の姿を決めるのは皆さんの一票一票だということを肝に銘じてください。社会制度の選択は、政治家に責任があると思いますが、その政治家を選ぶのは有権者であり、棄権は、まだ見ぬ結果に白紙委任したことになります。時代や社会にももの申す権利と責任を放棄することなく、皆さんの一票を通した意思表示を大切にしてくださいと思います。

贈る言葉

話を変えて、昨年末の明るい話題と言え、何と言っても 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定でしょう。「あもてなし」が脚光を浴びましたが、私は不屈の精神でハンディを乗り越えた佐藤真海選手のプレゼンにおける「私は目標を決め、それを越えることに喜びを感じ、新しい自信が生まれた。私にとって大切なのは、私が持っているものであって、私が失ったものではない」という言葉に素直に感動しました。ご存知のように、佐藤選手は、皆さんの年頃に右膝から下を骨肉腫で失っていますし、故郷は東日本大震災で被災した気仙沼です。私の好きな言葉に「意志のあるところに道は開ける」がありますが、固い意志と困難に挑戦する行動力こそが大切だと思います。皆さんは若くて、未だ夢や目標をしっかりと定められない人が多いのが現実だと思いますが、だからと言って、投げやりになったり逃げてはいけません。今いる場所で、最高の生き方をする、失敗を恐れず、それが青春だと思います。皆さんがこれから歩む道は、決して平坦な道ではありませんが、多くの出会いと一つひとつの努力の積み重ねがいつか必ず大きな実を結ぶことになると思います。

結びに、皆様の前途とご家族の皆様に幸多かれとご祈念申し上げ、祝辞といたします。本日は、誠におめでとうございます。

平成 26 年 1 月 12 日

厚真町長 宮坂 尚市朗